

テーマ 商店街・共同店舗

世代を超えた学校連携の地域貢献型組合活動

本町一丁目二丁目商店街振興組合

商店街と小学校が連携し、商店街を「学びの場」とした学校行事と学習活動で、商店街への集客効果にも貢献したコミュニティ・スクール事業。

背景と目的

商店街に近接する小学校が、平成19年～20年度の2年間、文部科学省のコミュニティ・スクール調査研究校となったことから、小学校側から当組合に対し、商店街を学習の場として活用させてほしいとの要望があった。当組合としても、子育ての当事者として、また、子供たちに「学びの場」として商店街を提供することで、地域社会での活動を通して子供たちの実践力を養い社会生活の一助となるのであればということに協力することとなった。さらに、事業を通して、子供たちの父兄や関係する多くの方々に商店街に足を運

んでもらうことで、地元商店街に愛着を持ってもらい、また子供たちが「まちづくり」に向き合うことで「ふるさと」を意識する機会を持たせることを目的に事業に取り組むこととなった。

事業・活動の内容

商店街と小学校が連携して行う取組みとして、①将来の夢などを書いてもらい商店街に飾る「幸せの黄色いハンカチ」、②夏休みに児童に地域の風景を写生あるいは写真撮影した作品を店先に展示する「ウインドギャラリー」、③商店街を車輛通行止めにして行う「マラソン大会」、④英語の授業の一環として行う「ハロウィン」、⑤商店街の街路灯にイルミネーションを巻き付け、そのカラーとなるペットボトルに児童が絵を描いて飾り付ける「希望の光」など多彩な企画を毎年実施している。当初2年で終了する予定であったコ

ミュニティ・スクール事業は、学校側からも学習に大変効果的であり、また関係者等にも認識されたことでその後も継続して現在に至る。

成果・効果

事業を通じて、商店街と小学校、父兄等と緊密な関係が構築できており、今まで認知度が低かった個々の商店と小学生、また、その家族等と挨拶などが交わされるようになってきた。加えて、組合員の結束が図れるとともに、子供を導くことの楽しさや子供の持つ持っているパワーが魅力ある地域づくりに不可欠であることを組合員も理解してきた。商店街を舞台にした学校行事と学習活動について、ボランティアとして参加した保護者からも高い評価が得られ、地元の様々な団体や個人が参加することで、共通の意識付けや認識を持つ機会として大いに効果が期待される。



▲商店街で繰り広げられるハロウィン



▲黄色いハンカチの飾り付けを行う店主と父兄たち

本町一丁目二丁目商店街振興組合

住所：〒310-0851

茨城県水戸市本町2-1-23

設立：昭和57年7月

出資金：1,847千円

電話：029-221-8304

URL：http://hwsa3.gyao.ne.jp/humming-road/

業種：小売業

組合員：40人

組合専従者：－